國學院大學学術情報リポジトリ

〔取り組みリポート〕図画工作科における「日本の伝統と文化」に関する教材開発に向けた予備調査

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2023-02-09
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 関口, 喜美子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002132

取り組みリポート

図画工作科における「日本の伝統と文化」に関する教材開発に向けた予備調査

関口　喜美子

【要　旨】

本研究では、図画工作科における「日本の伝統と文化」に関する教材開発を目的として、予備調査を実施した。具体的には、本学の「初等科教育法（図画工作）」を履修する学生（小学校教員志望学生）が「日本の伝統と文化」の教育に対してどのような意識を有しているかを明らかにするため、アンケート調査を実施した。その結果、多くの受講生は、「日本の伝統と文化」に対して大きな関心があり、それらの教育には学校や課外活動、地域社会との連携が重要であると捉えていることが明らかとなった。また、「初等科教育法（図画工作）」における「日本の伝統と文化」に関する教材開発を行うため、和紙に焦点を当てて意識調査を行ったところ、約60％の受講生が和紙の学習に関心を有していることが示された。しかしながら、大多数の受講生は、これまで和紙に関する授業を受けたことがないこともあり、和紙についてほとんど知識を有していないことが明らかとなった。今回の予備調査結果を踏まえ、今後、本学の「初等科教育法（図画工作）」の授業において、学校現場で実践することのできる具体的な実践方法を提案していきたい。

【キーワード】

日本の伝統と文化、アンケート調査、教材開発、図画工作科、和紙

1．はじめに

近年、国際化の進展やオリンピック・パラリンピック開催などに伴い、「日本の伝統と文化」[1]に関する教育の重要性が高まっている。例えば、教育基本法第２条が掲げる教育目標においては、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」とされている。こうした教育基本法が目指す目標を基盤として、中央教育審議会（2016a）では、「多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度や、多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを子供たちに培っていく」と記述され、「日本の伝統と文化」の尊重と多様な国々との異文化理解を深めることが求められている。

では、実際の学校現場、とりわけ図画工作科においては、「日本の伝統と文化」に関する学習の現状はどのようになっているのだろうか。

2．本調査の意義

平成23年の学習指導要領以降、初等中教育の教育課程において「我が国の伝統と文化」

が重要事項として扱われることとなった。それらの基本的考え方を継続し、平成32年度から全面実施される新学習指導要領の教育内容の主な改善事項においても伝統や文化に関する教育の充実が示されている。これを受け、図画工作科の学習指導要領において伝統と文化についての内容の取扱いは、「親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること」として第５学年及び第６学年の鑑賞領域に位置づけられている。東京都教育委員会（2010）は、日本の伝統・文化理解教育推進モデル地域における実践事例や開発した教材等を紹介している。これらを経験した教員の声として、教員自身の「日本の伝統と文化」に対する理解の深まりなど肯定的な意見が寄せられている。しかしながら、松岡（2016）は、今日の学校現場における鑑賞学習指導の消極性を指摘しており、近年の鑑賞教育への関心の高まりに対して十分に実践されていないとしている。また、松岡（2016）の現役教師329人に「自身の鑑賞学習指導を充実させるうえで必要だと考えるものは」、「これからの鑑賞学習指導の充実に必要だと考えるものは」の設問に対し、約８割の教員が鑑賞教育指導を充実する上で「美術文化に対する教養」が重要と捉え、その指導や評価などの研究や研修を希望していることが明らかとなっている。さらに、太田（2010）は、児童・生徒や教員が伝統文化に触れる機会が減少していることを指摘している。

以上のことから、実際の学校現場における「日本の伝統と文化」に関する取り組みについては、教師の経験や知識と力量に任されているのが現状と推察される。こうした状況を鑑みると、今後、小学校教員志望学生に対し、「日本の伝統と文化」に関する経験や知識、実践力を強化することが課題と考えられ、本講義「初等科教育法（図画工作）」を進めていく上で、学生の実態や現状を把握することは不可欠であると考えられる。そこで、本研究では、「初等科教育法（図画工作）」を履修する学生に対する「日本の伝統と文化」の教育の意識調査を通じて、その現状を把握するとともに、教材開発に向けての基盤の構築を目指していく。

３．図画工作科における「日本の伝統と文化」に関する教材の選択

中央教育審議会（2016ｂ）においては、「芸術の学習等を通じて、日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し、我が国の伝統や文化を語り継承していけるようにすること、様々な国や地域について学ぶことを通じて、文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働していくことができるようにすることなどが重要である」、「グローバル化する社会の中で、子供たちには、芸術を学ぶことを通じて感性等を育み、日本文化を理解して継承したり、異文化を理解し、多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。このため、美術や工芸の伝統や文化を尊重し、実感的な理解を深めていくことが重要である」と記述されている。

このように、今後の学校教育ではグローバルな視野とともに自国の伝統と文化への理解が必須となる。図画工作科においても、グローバルな視点から「日本の伝統と文化」の教材化を模索することは重要であると考えられる。世界的な認知度の観点から考えた場合、国連教育科学文化機構（UNESCO）によって無形文化遺産として登録された和紙[2]はその対象として最適と言えるだろう。この登録を契機として、和紙は世界的に評価されるとともに、国内においてもその文化的価値が広く認識されるようになり、その保存・継承の取組がより一層進められるようになった。例えば、文化庁は「文化遺産を活かした地域活性化事業」の一環として、「美濃和紙あかりアート展」を毎年開催しており、平成26年には２日間で８万人が来場するなど、その関心の高さがうかがえる。国内外において注目を浴びている和紙を図画工作科の材料として使用することにより、伝統や文化の継承のみならず、生活との関わり、さらには新しい文化の創出や国際理解を深めることが期待される。

上記の教材開発を行う上で、「日本の伝統と文化」の教育に対する意識の実態と和紙に関する知識と関心を把握することが重要と考え、本学の「初等科教育法（図画工作）」を履修する学生（小学校教員志望学生）を対象として、「日本の伝統と文化」の教育に関する意識調査を行った。

４．調査方法

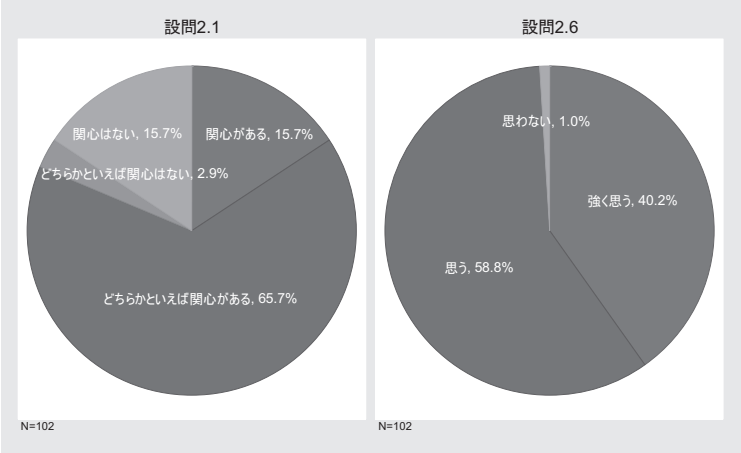
平成30年度前期に「初等科教育法（図画工作）」の受講生102名（初等科教育法学科90名、健康体育学科12名）を対象に、アンケート調査を実施した。調査実施日は、授業の最初に本調査の趣旨や質問紙の記入方法などを説明した後、約15分～20分間かけて回答してもらい、その後すぐに質問紙を回収する形式をとった。質問紙の内容は、受講生の属性（学科、学年、出身地）についての設問、「日本の伝統と文化」についての設問、「日本の伝統と文化」の学習についての設問、和紙についての設問の４領域26問から構成される[3]。設問の作成に当たっては、文化庁（2018）と安部・中村（2012）を参考にしつつ、内容の検討を行った。回答方法は、主に４段階で回答する形式を採用したほか、複数回答や具体的な内容や理由を書いてもらう自由記述の形式とした。本稿では、「日本の伝統と文化」に関する設問２及び設問３での回答を分析･検討することにより、受講生の「日本の伝統と文化」の教育に対する意識の実態を明らかにする。また、設問４を通じて、本講義で扱う和紙について、どの程度の知識と関心を有しているかその現状を読み取る。

５．調査結果

（１）「日本の伝統と文化」の教育に対する学生の意識実態

では､「初等科教育法（図画工作）」の受講生（小学校教員志望学生）は､「日本の伝統と文化」の教育に対してどのような意識を有しているのだろうか｡「日本の伝統と文化」については、

図１　「日本の伝統と文化」に対する関心と継承に関する意識（有効回答：102名）



設問２及び設問３の15項目からなるが、その中の６項目を取り上げて検討する。

まず、設問2.1「日本の伝統と文化に関心はありますか」に対する回答結果は、「関心がある」が15.7%、「どちらかと言えば関心がある」が65.7%となっており、約８割の学生が「日本の伝統と文化」に関心を有していることがわかった（図１左）。さらに、設問2.6「日本の伝統と文化を後世に残していくべきだと思いますか」という設問に対し、「強く思う」が40.2%、「思う」が58.8%であり、ほぼ全員が肯定的に捉えている（図１右）。

これらを回答した学生に対し、設問2.7「日本の伝統と文化を継承するために、どのような取り組みが必要だと思いますか」と質問したところ、「学校の授業や課外活動において子どもたちに教える」が最大（43.9%）、次いで「地域ぐるみで行事や習慣を次の世代へ引き継ぐ」（33.8%）となった（図２）。これらの結果から、受講生は「日本の伝統と文化」に対する関心や継承への意識が高く、その取り組みとして学校や地域での教育が重要であ

図２　「日本の伝統と文化」を継承させるための取り組み（有効回答：101名）

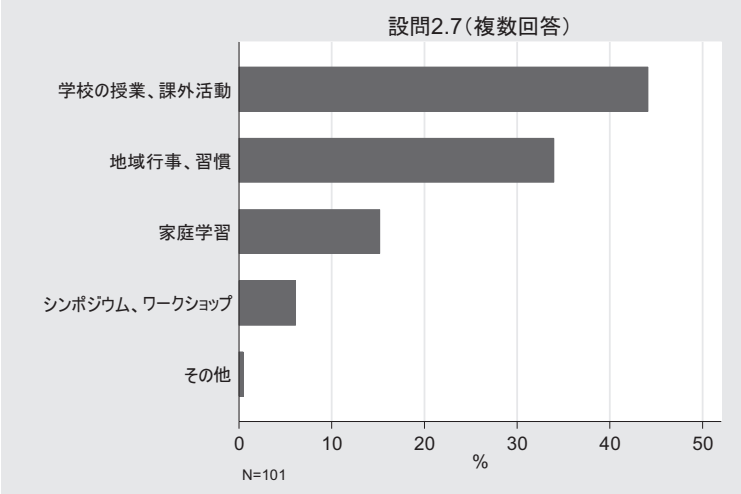
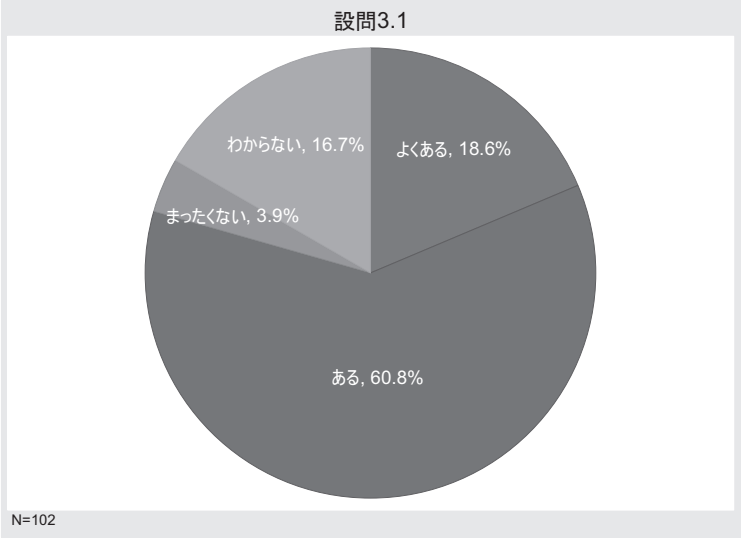


図３　「日本の伝統と文化」に関する学習経験の有無（有効回答：102名）



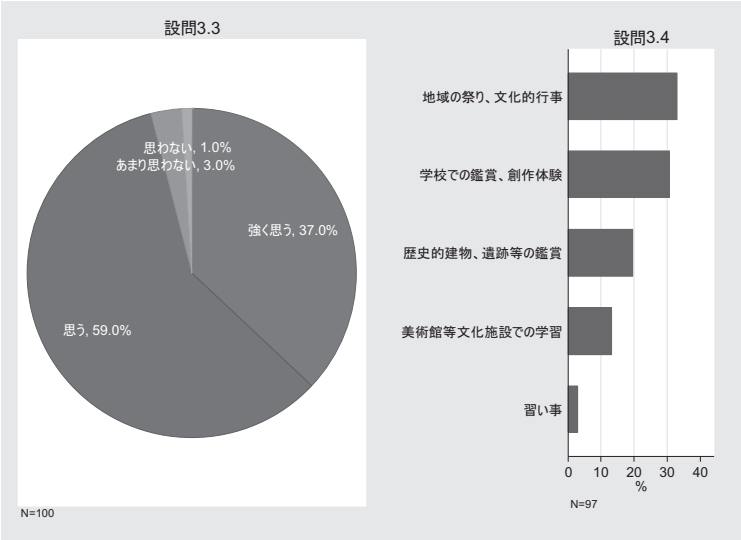
ると捉えていることがわかった。

また、日本の伝統と文化における教育の設問3.1「これまで日本の伝統と文化に関する授業を受けたことはありますか」に対しては、「よくある」が18.6％、「ある」が60.8％となり、約８割の学生が授業を受けた経験があると回答している（図３）。このうち、「よくある」、「ある」と回答した学生に具体的な授業内容を記述してもらったところ、「神道と文化」、「日本の伝統文化」、「武道」など、本学の授業で学習した内容を挙げた受講生がほとんどであった。このことから、受講生にとっては「日本の伝統と文化」を学習・体験する主要な場が本学となっていることがわかった。したがって、大学での学習経験は、「日本の伝統と文化」に対する理解を深めるとともに、生活との関わりや文化を創造する意識を高められると考えられる。

設問3.3「子どもに伝統と文化を体験させることは必要だと思いますか」では、「強く思う」、「思う」と肯定的な回答をした学生が９割超となった（図４左）。これらの学生に対し、設問3.4「子どもの伝統と文化の体験には何が重要だと思いますか」を回答（複数回答可）してもらった結果、地域の祭りや文化的行事に親しむことを重視する学生が最も多く、次いで学校における鑑賞や創作体験の充実が重要であると捉えている学生が多いことがわかった（図４右）。

これらの結果をまとめると、受講生は、子どもに「日本の伝統や文化」を体験させることの必要性を認識し、それらの取り組みとして学校での鑑賞や創作体験が不可欠と考えていることから、本講義「初等科教育法（図画工作）」において、「日本の伝統と文化」の教育を充実させることは重要であると言えよう。

図４　子どもに伝統と文化を体験させることの必要性（有効回答：100名）と取り組み（有効回答：97名）



（２）学生の和紙に対する関心と知識について

和紙は古来より日本の生活（障子、屏風、襖、扇子、団扇など）や文化（書道、日本画、水墨画など）に深く根ざし、豊かにしてきた。ここでは、日本の生活や文化を支えてきた和紙について、受講生の興味・関心度合いや知識について把握すべく、設問４の回答を分析・検討する。

設問4.1「和紙を使ったことがありますか」に対して、約６割の学生が和紙に触れた経験があると回答している。また、設問4.4「和紙について学習したいと思いますか」に対して､「強く思う」が4.0%､「思う」が55.4%と約６割の学生が肯定的な回答を示している（図５左）。一方､設問4.7「これまで和紙に関する授業を受けたことはありますか」では､「まっ

図５　和紙を学習することへの意欲と和紙に関する学習経験の有無（有効回答：101名）

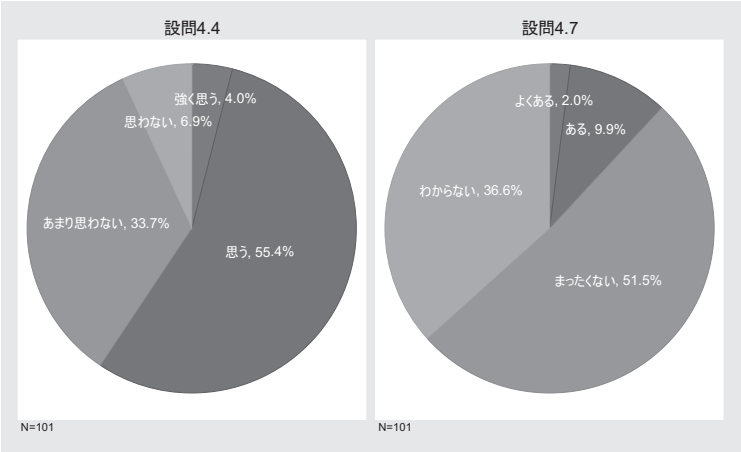
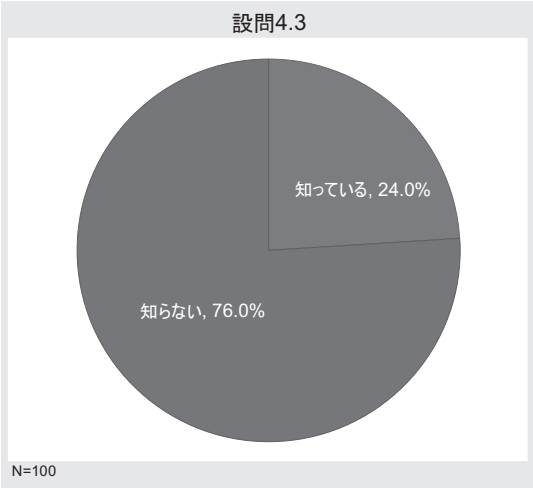


図６　和紙のUNESCO無形文化遺産登録に関する認知度（有効回答：100名）

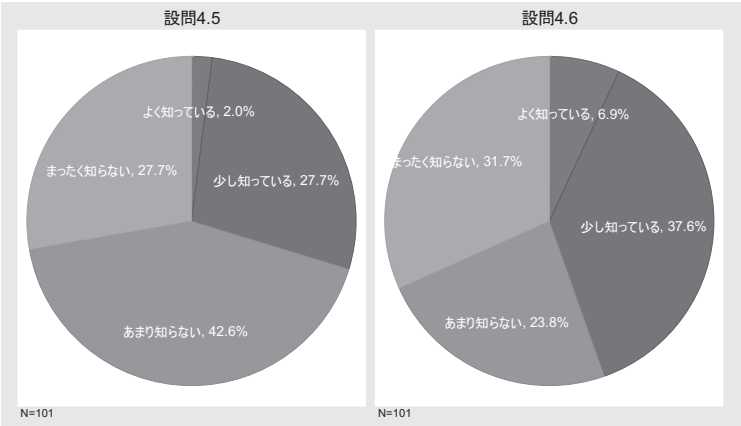


たくない」(51.5%)、「わからない（覚えていない）」(36.6%）と約９割の学生が学校教育の場において和紙に関する授業を受けたという認識は低い結果となった（図５右)。

さらに、和紙に関する知識として、設問4.3「2014年、和紙がUNESCO無形文化遺産に登録されたことを知っていますか」に対しては、「知っている」が24.0%、「知らない」が76.0%となり、和紙のUNESCO無形文化遺産への登録については認知度が低いことがわかった（図６)。

和紙の専門的な知識である設問4.5「和紙の原料を知っていますか」では、約７割の学生が「あまり知らない」「まったく知らない」と回答している（図７左)。さらに、設問4.6「手漉き和紙の製造方法を知っていますか」に対しては､「あまり知らない」(23.8%)､「まったく知らない」(31.7%）と６割弱の学生が知らないとする一方（図７右)、約４割の学生が知っているという結果となった。ここ数年、日本文化の紹介などのテレビ番組等を目に

図７　和紙の原料と手漉き和紙の製造方法に関する認知度（有効回答：101名）



する機会が多くなったことが影響している可能性がある。

以上の結果から、受講生は和紙に対して関心があるにもかかわらず、その知識や実体験が乏しいことが明らかとなった。

（3）図画工作科における「日本の伝統と文化」に関する今後の授業展開

図画工作科において和紙を取り入れた教材開発として、様々な内容が考えられる。例えば、田島・松島(2015)は和紙を重ねる、丸める、水切りなどの手法を使って季節のカレンダーづくりを提案している。また、大河原（2017）は、学校現場において和紙に関する造形の発展性が乏しいことを指摘しており、平面表現だけではなく立体表現のランプシェードづくりなど様々なことを試みている。

筆者は和紙と他の材料（礬水[4]）を組み合わせることで、表現の幅を広げ、和紙の表現の可能性を追求していきたいと考える。本学の「初等科教育法（図画工作)」においては、次の３つに焦点を当てて授業を展開していきたい。

①和紙の歴史や用途、和紙と洋紙の違い、原料と製法などについての基礎的な知識を深める。

②科学的実験による考察、発表を通じて、和紙の構造と表現の可能性について模索する。

③習得した知識を活かし、造形活動を行う。

本講義において受講生が習得した基礎的な知識・技能が基盤となり、古くから受け継がれてきた日本の伝統美への尊重や学校現場において和紙を題材とした授業の展開が可能となることを期待したい。

６．調査結果

本調査結果を通じて、本学の「初等科教育法（図画工作)」を履修する学生（小学校教員志望学生）は、「日本の伝統と文化」に対して非常に関心があり、それらの教育には学校や課外活動、地域社会との連携が重要であると捉えていることが明らかとなった。一方、「日本の伝統と文化」を習得する主要な場が本学であることがわかった。大学の教員養成課程においては、学校現場で実践することのできる具体的な実践の内容と方法を提示していくことが今後の課題であろう。

本稿では、筆者が教材開発を行うテーマとして、和紙を取り上げたが、受講生は和紙の学習に関心が高いものの、これまでの授業において和紙に触れる機会が少なかったことが示唆された。和紙を取り入れた授業は、国際交流や異文化理解教育ばかりではなく、今後どのように保護や継承、発展させていくのかについても考えるきっかけとなろう。また、造形活動においては、平面表現や立体表現など様々に展開可能な素材でもある。今後、和紙の可能性を追求し、教材の一つとして提案していきたい。

参考文献

安部崇慶・中村哲（2012）『「伝統と文化」に関する教育課程の編成と授業実践』風間書房。
大河原典子（2017）「日本の伝統的素材を応用した図画工作科のための新しい造形素材の考案」『鎌倉女子大学学術研究所報』第17巻、pp65-73.
太田直之（2010）「日本の伝統文化研究と伝統文化教育の間」『國學院大學人間開発学研究』、pp28-34.
田島陽子・松島さくら子（2015）「日本の伝統工芸を取り入れた図画工作指導～和紙を探る～」『宇都宮大学教育学部教育実践紀要』第１号、pp97-105.
中央教育審議会（2016a）『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』
中央教育審議会（2016b）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
東京都教育委員会（2010）「日本の伝統・文化理解教育の一層の充実に向けて」『日本の伝統・文化理解教育指導資料』
http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/school/document/tradition_and_culture/files/traditional_culture/sidousiryo2.pdf（2018年10月８日閲覧）
文化庁地域文化創生本部事務局（2018）『平成29年度 生活文化等実態把握調査事業報告書』
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/seikatsubunkato_jittai/pdf/r1403203_01.pdf（2018年10月８日閲覧）
松岡宏明（2016）「小学校における鑑賞学習指導の現状と課題」『美術教育』第300号,pp.34-41.
文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文京出版。
文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文京出版。
文部科学省（2018）『特集１　2020年に向けた文化政策の戦略的展開』
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201501/detail/1361475.htm（2018年10月８日閲覧）

注

１　東京都教育委員会（2008）『日本の伝統･文化理解教育指導資料』「日本の伝統･文化理解教育の推進」によると、「伝統文化」とは、我が国の長い歴史の中で、人々に受け継がれてきた文化を意味し、「伝統･文化」とは、過去の遺産や文化の継承のみならず、未来に受け継いでいきたい現代の文化をも含むと定義づけられている。本稿では、「伝統文化」及び「伝統・文化」の両方の意味を含む内容を「日本の伝統と文化」と表記する。

２　2014年に「和紙：日本の手漉（てすき）和紙技術」がユネスコ無形文化遺産に登録された。登録された和紙は、石州半紙（せきしゅうばんし）（島根県浜田市）、本美濃紙（ほんみのし）（岐阜県美濃市）、細川紙（ほそかわし）（埼玉県小川町、東秩父村）である。

３　質問紙は、文末に掲載。

４　礬水（どうさ）とは、膠水（にかわすい）と生明礬（なまみょうばん）の混合液である。和紙の滲み止めとして使用させる。

《資料》

「日本の伝統と文化に関する意識調査」

2018年7月4日

初等科教育法(図画工作)担当
関口　喜美子

本調査は、初等科教育法(図画工作)を履修する学生が「日本の伝統と文化」に対してどのような意識を有しているか明らかにすることを目的としています。また、今回学習する和紙の知識についても調査させて頂きます。各回答者のプライバシーの保護に配慮した上で、ご回答頂いた内容はすべて統計的に処理され、学術研究のみ使用致します。ご希望の方には結果の概略について報告書をお渡し致します。是非とも率直な意見をお聞かせください。

調査へのご協力の程宜しくお願い致します。

《質問用紙記入についてのお願い》

○ 回答に当たっては、他の方とご相談されることなく、必ず一人でお答えください。
○ 質問紙には名前や学籍番号を記入する必要はありません。
○ 答えにくい質問については、無記入でも結構です。
○ 【必須】となっている箇所は、すべて答えてください。
○ 質問への回答は、あてはまる回答選択肢の項目番号に○をつけてください。
○ 質問回答で、回答選択肢に当てはまる項目がない場合には、「その他」の項目番号に○をつけ、下の設問に具体的な内容を記入してください。
○ 質問紙は5ページ、質問は全部で26問、回答にかかる時間は約15分～20分です。
○ 記入は、鉛筆あるいは黒か青のボールペンなどでお願いします。また、回答を訂正する場合は、消しゴムで消すか、×印をつけるなどして、訂正したことを明示してください。
○ 質問紙は本日中に回収します。

設問１　あてはまる項目に○をつけてください。また、空欄には出身地を記述してください。

設問 1.1 【必須】　学科をお答えください。

初等教育学科　　健康体育学科

設問 1.2 【必須】　学年をお答えください。

1　2　3　4

設問 1.3 【必須】　出身地をお答えください。

設問２　以下の質問では日本の伝統と文化[1]について伺います。あてはまる番号に○をつけてください。

※ここで示す日本の伝統と文化とは次のようなことを指しています。
⑴生活文化…生活に密接に関わる文化(食事、着物、家、年中行事、あそびなど)
⑵地域文化…住んでいる地域の伝統芸能、産業(地域に伝わる祭りや踊り、播州歌舞伎、立杭焼、黒谷和紙など)
⑶伝統文化…日本の伝統的な芸術・芸能・芸道(能・狂言、茶道、華道、書道、伝統工芸、日本画、俳句、和歌、邦楽など)
⑷Japan Now…国内外で評価が高い現代の日本文化(アニメ・マンガ、映画・音楽など)

設問 2.1 【必須】　日本の伝統と文化に関心はありますか？

1 関心がある　　2 どちらかと言えば関心がある
3 どちらかと言えば関心はない　　4 関心はない

設問 2.2　設問 2.1 で「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と答えた方にお尋ねします。
どのような日本の伝統と文化に関心があるか具体的に教えてください。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

設問 2.3　設問 2.1 で「関心がある」「どちらかと言えば関心がある」と答えた方にお尋ねします。
日本の伝統と文化についての情報をどのような方法で入手するか教えてください。(複数回答可)

1 学校での授業　　2 本・雑誌・新聞　　3 テレビ・ラジオ
4 インターネット　　5 美術館・博物館　　6 祭り・イベント
7 友人・知人・家族　　8 その他　[　　]

1　兵庫県教育委員会編（2007）『学校設定科目 日本の文化』の内容区分を参考。

設問 2.4 【必須】 日本の伝統と文化を体験したことがありますか。

1 よくある　　2 ある

3 まったくない　　4 わからない(覚えていない)

設問 2.5 設問 2.4 で「よくある」「ある」と答えた方にお尋ねします。どのような体験をしたのか具体的に教えてください。

設問 2.6 【必須】 日本の伝統と文化を後世に残していくべきだと思いますか？

1 強く思う　　2 思う

3 あまり思わない　　4 思わない

設問 2.7 設問 2.6 で「強く思う」「思う」と答えた方にお尋ねします。日本の伝統と文化を継承するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答可)

1 学校の授業や課外活動において子どもたちに教える

2 家庭において子どもたちに教える

3 地域ぐるみで行事や習慣を次の世代へ引き継ぐ

4 シンポジウムやワークショップ等により普及活動を行う

5 その他

6 わからない

設問 2.8. 設問 2.7 で「その他」と答えた方にお尋ねします。どのような取り組みが必要か具体的に教えてください。

設問3　以下の質問では日本の伝統と文化の学習について伺います。あてはまる番号に〇をつけてください。

設問 3.1 【必須】 これまで日本の伝統と文化に関する授業を受けたことはありますか？

1 よくある　　2 ある

3 まったくない　　4 わからない(覚えていない)

設問 3.2　設問 3.1 で「よくある」「ある」と答えた方にお尋ねします。具体的な授業内容を教えてください。

設問 3.3 【必須】　子どもに伝統と文化を体験させることは必要だと思いますか？

1 強く思う　　2 思う
3 あまり思わない　　4 思わない

設問 3.4　設問 3.3 で「強く思う」「思う」と答えた方にお尋ねします。子どもの伝統と文化の体験には何が重要だと思いますか。（複数回答可）

1 学校における鑑賞や創作体験の充実　　2 習い事の充実
3 美術館等の文化施設における学習の充実　　4 地域の祭りや文化的行事に親しむこと
5 歴史的な建物や遺跡などの学習の充実　　6 その他
7 特にない

設問 3.5　設問 3.4 で「その他」と答えた方にお尋ねします。何が重要か具体的に教えてください。

設問 3.6 【必須】子どもの伝統と文化の体験について、期待される効果は何だと思いますか。

1 美しさなどの感性の育成　　2 コミュニケーション能力の向上
3 他者との相互理解　　4 日本や地域に対する愛着心の育成
5 日本と諸外国の文化の関心　　6 伝統と文化の継承に対する関心
7 その他　　8 特にない

設問 3.7　設問 3.6 で「その他」と答えたにお尋ねします。期待される効果は何か具体的に教えてください。

設問 4　以下の質問では和紙について伺います。あてはまる番号に○をつけてください。

設問 4.1 【必須】　和紙を使ったことがありますか？

1 よくある　　2 ある

3 まったくない　　4 わからない(覚えていない)

設問 4.2　設問 4.1 で「よくある」「ある」と答えた方にお尋ねします。具体的に何に使ったのか教えてください。

設問 4.3 【必須】　2014 年、和紙が UNESCO 無形文化遺産に登録されたことを知っていますか？

1 知っている　　2 知らない

設問 4.4 【必須】　和紙について学習したいと思いますか？

1 強く思う　　2 思う

3 あまり思わない　　4 思わない

設問 4.5 【必須】　和紙の原料を知っていますか。

1 よく知っている　　2 少し知っている

3 あまり知らない　　4 まったく知らない

設問 4.6 【必須】　手漉(てす)き和紙の製造方法を知っていますか。

1 よく知っている　　2 少し知っている

3 あまり知らない　　4 まったく知らない

設問 4.7 【必須】　これまで和紙に関する授業を受けたことはありますか？

1 よくある　　2 ある

3 まったくない　　4 わからない(覚えていない)

設問 4.8　設問 4.7 で「よくある」「ある」と答えた方にお尋ねします。具体的な授業内容を教えてください。

以上で質問は終わりです。回答欄に記入漏れがないか、最後に確認してください。

調査にご協力頂き、ありがとうございました。